# 卒業セミナー I

科目ナンバリング　SEM-401
選択必修　　2単位

藤田　敏明

1. 授業の概要（ねらい）

前期の基本線は「ジェンダーの揺らぎ」。世界中の文化に存在する「社会的・文化的な性別＝ジェンダー」を主題として取り上げ、それが揺らぐ不安定な局面から、人間の感性の普遍性を考えていきたい。前期テキストは、シェイクスピア『十二夜』。女性が男装し、女性に愛され、男性を愛するという、不思議で混乱した物語である。これを出発点に、オペラ、歌舞伎、宝塚、など、いくつかの具体的な文化事象を例として、「ジェンダーの揺らぎ」を物語る作品について考察する。

2. 授業の到達目標

対象作品の理解はもちろんのことだが、単独に作品を「知る」だけではなく、そこに普遍的にある「人間の感性、心理状態の普遍性」をも理解すること。さらには、それを通じて、「自分が今までに知っている狭い範囲の知識」ではなく、「より広い視野」「自分自身（自国文化）を相対化した、比較文化的感覚」を身に着けることそしてそれを「自分自身の言葉でレポートとしてプレゼンテーションあるいは表現できること。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の授業最後の小レポートにおける、「授業内容理解」五割、および、プレゼンテーションの状況と期末レポートが五割。ただし、プレゼンテーションとレポートは必須。

4. 教科書・参考文献

教科書
シェイクスピア
『十二夜』　ちくま文庫
参考文献
その他の作品については、随時、教員からハンドアウトを配布する。

5. 準備学修の内容

授業開始までに、欧米文化についての常識的な知識は身につけておくこと。毎回の授業ごとに、前回の授業内容についての自己の理解を確認すること。自分の過去に知識との比較において、どういう「新たな知識」があったかを確認すること。

6. その他履修上の注意事項

知識を身に着ける、ということではなく、自分の頭脳で考えること、それを、借り物ではなく自分自身の言葉で表現すること。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション。授業の全体像。シェイクスピア『十二夜』の紹介と、一部作品内容理解。第1幕。テキストおよび映像
【第2回】　第2、第3幕。「お姫様が愛しているのは私、でも私は女だからそれには答えられない。私が愛しているのは公爵様、でも私は男だからこの恋はかなわない、ああ、混乱しちゃう」
【第3回】　第4,5幕。「そこにいるのは俺か?」――一つの顔、一つの声、しかし二つの体!
【第4回】　オペラ『ばらの騎士』第1幕女装する男性――を演じる女性歌手。しかし不倫がばれそうになったため、慌てて女装する.
【第5回】　第2幕。美貌の男性を演じる女性歌手――二恋する娘。
【第6回】　第3幕。再び女装する美貌の男性――を演じる女性歌手。
【第7回】　歌舞伎『白波五人男』男性が演じる女性、女形――が演じる、「女装した男性盗賊」「しらざあ言って聞かせやしょう、――弁天小僧、菊之助とは、俺がことだ!」
【第8回】　宝塚歌劇。『ベルサイユのばら』すべて、女性によって演じられる世界。「男装する女性」を演じる「男役」女性俳優。「オスカルさま!!」
【第9回】　後半「千の誓いが欲しいか、万の誓いがいるのか。命をかけて言った言葉をもう一度いえというのか――愛している、愛している!!」
【第10回】　オールメールのシェイクスピア『間違いの喜劇』
【第11回】　後半
【第12回】　学生のプレゼンテーション。三名――四名
【第13回】　プレゼンテーション。三名――四名
【第14回】　プレゼンテーション。三名――四名
【第15回】　プレゼンテーション。三名――四名